20.7.28 （於て、富戸コミセン）

学童保育を考える

第一部　田畑まどかさんの報告

司会

今日は「学童保育を考える」、学童保育の現状と課題というような感じで、この会を持ちました。報告者の田畑まどかさんは、新婦人のお花畑班の平和の取り組みのつながりで今回お願いしたわけなんです。田畑さんがこの学童保育の所長さんということで、出来る前からずぅーとかかわってやってきた方です。この資料も丁寧に作ってありますので、これを使ってお話しをいただければと思います。よろしくお願いします。

田畑さん

1、自己紹介

よろしくお願いします。始めに簡単に自己紹介させていただきます。学童を作るにあたって「富戸っ子　学童を立ち上げる会」の会長を経て、開所時より非常勤勤務で支援員として関わりはじめ、現在富戸すまいるクラブの所長を務めております。田畑まどかと申します。富戸在中、子どもは小学 4 年生と保育園の年長児の 2 児のシングルマザーです。出産前までの 4 年間は川奈にある保育園で看護師として勤務しておりました。現在も月数回ですが、そちらに勤務しています。出産後は伊東市民病院の外来に勤務しており、午前中、数日ではありますが勤務をしています。コロナの影響もあり、病院勤務と学童との両立が厳しくなってきたため、来月退職することが決まっております。保育園・病院ともに、子どもとの関わりや運営にとても生かされる経験になっていると思っております。

本日お話しをさせていただく内容は富戸すまいるクラブに関しての内容となります。他の学童さんと較べてかなり人数が少なく、小規模のため、若干内容が違うこともあるかと思いますがその点につきましてはご了承ください。

2、富戸すまいるクラブ開設のきっかけ

平成 28 年 4 月、息子が保育園の年長に上がったと同時に、私も働いておりましたので、「学童がないと困る。学童を富戸に作りたい」と、自分がその時していた仕事を続けるために学童を作ろうと思ったのがきっかけでした。そうはいっても、どう作ればいいのかさっぱりわからず、市議会議員の重岡さんの事務所に相談に伺ったのが始まりです。そこからは、3 人の市議会議員さん、当時の富戸小学校の PTA 会長さんはじめ、様々な方にご協力をいただきまして、15 名のメンバーとともに「富戸っ子　学童を立ち上げる会」を発足いたしました。毎週のように主要メンバーが集まり、白紙の状態からの立ち上げ作業はとても苦労しました。みんなの「学童が欲しい」という強い気持ちと団結力で一年かけようやく開設に至っております。関わる全ての人が笑顔になれるように、と「富戸すまいるクラブ」と命名いたしました。過去に何度か話が上がった『富戸に学童を作る』ということが、なかなか現実にはならなかったと聞いておりましたが、富戸地区の学童の開設が今回実現したことは本当に、関わってくれた全ての方のご尽力のおかげであり、主要メンバーのお母さんたちが各分野で力を注いでくれた努力のたまものであったな、と感じております。

3 、富戸すまいるクラブの概要

富戸すまいるクラブの概要ですが、本年度の

登録は 48 名、家庭数が 35、となっております。他の学童さんに比べると、かなり少ない人数になっておりますが、立ち上げ当初は総勢でも 20 名に満たなかったほどですので、大幅に増えてきています。現在、平日使っているのは 15 名から 20 名ほど、少ないと 10 名ほどの日もあります。長期休みは 20 人～30 人の子たちが利用しています。支援員の人数ですが、常勤が 2 名、非常勤が 4 名、アルバイトが 1 名。うち認定資格者は 2 名、補助員の資格者は 1 名となっています。保育時間は、平日は 12:30～18:35 まで開所。延長料金が発生すると 19:00 までお預かりしております。子どもたちがくるのは、だいたい 15 時ころからになります。土曜日と長期休みですが、8:00～18:00 までの開所となっておりますが、現在土曜日は資格者の数の問題と利用者がかなり少ないということで、8:00～16:00 とさせていただいています。活動に関してですが、毎週水曜日に「すまいるミュージック」という音楽に関わる時間をつくっています。コロナが市内で出ていることもあり、密になる活動のため、現在はお休みしています。昨年度の取り組みとしては、みつとみ俊郎先生の脚本でミュージカル「みんなの森」に、希望児童が取り組ませていただきました。一回目の発表を終え、二回目の発表予定だったのですが、緊急事態宣言と重なってしまったため中止となりました。不定期で、体育教諭の保護者と協力して陸上教室を実施。毎年富戸マラソンの時期に合わせて同じコースを走る練習をしています。

運営についてですが、市から出る委託金と各家庭から頂く会費で運営しております。詳細は省かせていただきますが、動くお金に関しては、立ち上げ年は 600 万円ほどでしたが、昨年度は 1,000 万円、今年度は 1,200 万円という予算がついております。他の学童さんに比べるとかなり低い額になりますが、立ち上げ当初は人件費すらまともに払えないほど小規模でした。現在は常勤支援員が社会保険に加入できるまでの安定時期に入っております。社保加入は人材確保に関しては大きいメリットになっていると実感しています。

4、保育内容

次に保育内容になります

①富戸すまいるクラブの目標

学童目標は「いつでも笑顔」です。命名の由来通り、関わる全ての人が笑顔になれる学童でありたいという思いを大切に日々過ごしております。

②具体的な活動

学童として、支援員として心掛けていることは、家に帰ってきたような環境を提供することです。毎日笑顔で「おかえり」と受け入れるようにしています。保育に関しては、先日ちょうど保護者会があり、保育についてお伝えした内容がありますので、それを読ませていただきます。お聞きください。

―原則「見守り保育」を実施しております。年齢的にも子どもたちで遊べるため、出来るだけ子ども同士の関わりができるよう促しています。全体を見回す上で、支援員は室内で一対一で行うゲームなどは避けるようにしております。外遊びに関しては、少人数の学童のため、ドッジボール、サッカー、鬼ごっこなどについては遊びの輪を広げるために支援員も入ることが多いです。見守っている姿が、「立っているだけ、見ているだけ」と感じてしまうこともあるかもしれませんが、その子がどんなふうに学童で過ごし、誰とどのような会話をしているか、

など表情も見させていただいております。そこで得たものを生かし、コミュニケーションを図るようにしています。トラブルに関してですが、高学年に対しては自分たちで話をし、解決できるよう促しています。低学年に関しては、一緒に話をし、自分の思いを相手に伝えられるよう支援をしております。子どもによっては勘違いもあり、「いじめられた」と思う時もあると思います。お家で思うように話ができず、ことが大きくなってしまうこともあります。また、学童を通さず学校に相談してしまうことで、事実と違うことで相手の子が指導されてしまったということもありました。学童の支援員も責任を持って保育に当たっております。ありのままをご家庭に説明するように日々心掛けております。平等についてですが、どの子にも同じ対応を心がけていますが、異年齢が生活を共有しています。また、個性あふれる子どもたちの対応には試行錯誤の毎日です。向かっている方向は同じですが、そこまでの声掛けや対応はその子にあった対応をします。子どもからしたら「〇〇さんだけずるい」「〇〇さんには甘い」と思うこともたくさんあると思います。一回言ってわかる子もいれば、何か月もかけて対応させていただく子もいるのが現状です。まずは個性を認め合えることを大切に、そんな中で子ども同士も仲間を思いやる気持ちを育んでいけたらと思いますが、低学年・中学年だとまだまだそこまで行き着くのは難しいようです。厳しい言葉が飛び交うこともありますが、誰かだけが悪いのではなく、言っている子、言われた子の気持ちも大切に関わりをしていきたいと思います。―

というお手紙を今回保護者宛に出させていただいております。いろんな考えがあると思いますので、これが正しいというわけではないのですが、富戸の学童ではこのような対応をしています。支援員も毎日ミーティングをし、統一した保育を実施するよう心掛けております。

※学習と生活の支援

学習に関して、支援員は教師ではないので、教えることは目的とはしていません。保護者との約束で、宿題は全部学童で終わらせることになっておりますので、進み具合や理解度などは、毎日保護者にお伝えしています。勉強が苦手な子、いい加減になってしまう子、様々な子がおりますので、一人一人と向き合い、根気強く終わるまで寄り添っています。また生活面でも同じですが、個性あふれる子どもたちと、毎日衝突もし、悩まされることも多いのが現状です。先ほどもお伝えしましたが、一回言ってわかる子もいれば、何か月もかけて向き合い続けることもあります。時には保護者より長い時間を共にしておりますので、子どもたちのよき理解者となり、安心して過ごせる場、信頼してもらえる関係づくりに励んでおります。

5 、コロナの影響※一斉休校中の対応

3 月初めより、3 か月間の休校となりました。緊急事態宣言の中、致し方ない決断だったと思います。すまいるクラブは休校中、毎日朝から 10 時間開所しました。開所して本当に大丈夫なのか、自問自答の毎日でした。学童は学校とも違い、三密を防げる環境ではないのが現状です。また、最低限の消毒すら手に入らない時期もありました。

子どもたちも、いつもとは違う状況に、日に日にストレスを抱えるようになり、トラブルも増えました。常勤支援員も毎日 10 時間以上学童に缶詰め状態になり、精神的に限界に達したこともあります。ただ、この休校で、学童がニュー

スに取り上げられることが増え、学童のことを少しは世間の皆さんに知ってもらえたことは幸いだったと感じております。

今後もコロナの状況によっては休校や自粛生活が始まる可能性もありますが、出来る限り子どもたちを受け入れ、保護者の皆さんが安心して働けるよう協力したい思いでおります。が、どこまでが安全なのか、そこの見極めはとても難しいものだと感じております。国や市で補償も踏まえ、統一した対策を講じていただけたらいいな、と感じております。

6、運営にあたっての苦悩・今後の改善点

学童の運営母体は保護者会となります。保護者会役員とともに運営に当たります。ちょっと簡単に運営について説明するんですが、伊東市の放課後児童クラブには育成会という運営母体があります。育成会は、保護者代表、支援員代表、幼児教育課・課長、主任児童委員又は区長、学校長、小学校PTA会長で構成されています。が、主に保護者会が中心になって運営に当たっています。運営にかかる経費は、伊東市からの委託金と各家庭からの保育料で担われております。受け入れ学年、開所時間、休日、保育料、運営業務については、各学童で定められております。運営には、保護者と支援員の連携と協力、地域の皆様の理解が必要です。すまいるクラブは運営役員を作っていて、そこに保護者と支援員が入って運営をしております。

富戸すまいるクラブは今年で4年目を迎えたまだまだ成長段階にある学童です。一年目は利用人数も少なく、お金の工面で大変苦労しました。支援員はボランティアのようなものでした。現在は利用人数も増え、補助金も増え、運営面では安定してきております。ですが、まだまだ他の企業さんほどの待遇ではなく、支援員の確保には難しさを感じております。入れ替わりも激しく、何度もピンチを迎えてきました。

昨年度より社会保険の加入が現実となり、常勤勤務が2名となり、支援員体制も安定してきております。子どもたちとの関わりにも大変苦悩する日々ではありますが、運営については、会社を経営しているのと同様の作業も多く、素人には難しい現実も多々あります。まだまだ成長段階の学童のため、今後もたくさんの問題と向き合うことと思います。より良い学童を築いていけるよう、保護者、支援員が一致団結し、運営の面でも子どもたちを支えていけたらと思っております。

7、最後に、皆さんにお伝えしたい思い

他の学童さんと比べたら、申し訳ないぐらい小規模な「すまいるクラブ」です。ですが、立ち上げ者の思いがたくさん詰まった暖かい学童となっております。小規模だから向き合えることもたくさんあります。

学童ってどんなところなのか、誰が作ったのか。知らない方も多くいるのが現状です。保育園とも学校とも施設とも違う。保護者会が運営をし、支援員が汗水たらし、必死に現場で子どもたちと向き合い続けています。そのことを今後も発信し続けていくことも、役割の一つだな、と今回この勉強会のお誘いを受けて感じました。

すまいるクラブも私自身もまだまだ未熟ではありますが、富戸らしさを大切に、何よりも「笑顔」を大切に、誰からも愛される学童になってゆけるように、今後も精一杯努めて行きたいと思います。そして、立ち上げ者の熱く、強い思いを今後も忘れることなく、つないで行きたいと思っています。

本日は拙い話となりましたが、最後まで清聴いただきましてありがとうございます（拍手）。 お近くにお立ち寄りの際は、ぜひ可愛くてやんちゃな子どもたちの顔を見にお立ち寄りください。

司会

ホントにありがとうございました。かなり全体像が見えてきたお話しだったと思います。

（第一部、おわり）